

## 第2節【園芸部門】野菜産地の生産力強化と担い手の育成

### I【露地野菜】

#### 1 10年後の目指す姿

- ◎農作業の機械化や担い手の規模拡大が促進され、産地規模が維持・拡大しています。
- ◎病虫害防除や気象災害の対策技術が普及し、収量・品質が安定した産地が形成されています。
- ◎生産出荷組織の強化により、安定した品質と量が計画的に出荷され、販売力が向上するとともに、高い市場評価を得ています。

#### 2 現状と課題

- ①耕作者の高齢化と後継者不足にともない産地の面積が減少しているため、後継者の定着と新規参入促進による担い手確保、省力機械や技術の導入、雇用などにより労働力を確保し、産地面積の維持・拡大を図ることが必要です。
- ②連作による病害が産地維持の障害となっているため対策技術の導入が必要です。
- ③全国に競合する産地が新興しているため、計画出荷量の確保や出荷量の増加などの取組により、他産地より高い市場評価を得る必要があります。

#### 【数値目標】

項目	現状（令和2年度）	目標（令和7年度）
ねぎ単収	3 t / 10 a	3.3 t / 10 a
管内野菜指定産地のねぎ <sup>※2</sup> 販売額（再掲）	2,042百万円 <sup>※1</sup>	2,240百万円
管内野菜指定産地のにんじん <sup>※3</sup> 販売額（再掲）	1,619百万円 <sup>※1</sup>	1,780百万円

※1 管内2農協が策定した、各野菜指定産地に係る「産地強化計画」の令和2年度の出荷量実績に、該当出荷期間中の東京都卸売市場（全体）での千葉県産の平均単価を掛けた推計額。

※2 令和2年実績：春ねぎ1産地40ha・1,335t、秋冬ねぎ2産地136ha・3,721t。

※3 令和2年実績：春夏にんじん2産地28ha・1,172t、冬にんじん2産地284ha・10,157t。

#### 3 主な取組内容

- ①後継者や新規参入者の技術や知識の習得支援とともに、労働の補完の支援、

農閑期の作物導入による周年雇用の支援、省力栽培技術の普及などを実施します。【企】【普】

②連作障害対策技術と輪作作物の導入、病害虫対策技術の確立や耐性品種導入、ほ場の排水性改善技術導入を支援します。【普】

③産地におけるねぎ出荷量の向上技術を普及します。【普】

④にんじん収穫機（抜き取りタイプ）の利用期間を拡大できる品種の導入を支援します。【普】

⑤共同選果場を活用した、にんじんの計画出荷の理解促進と、選果ラインに適した品種の導入を支援します。【普】

⑥省力化機械の導入、集出荷・選果設備の導入等による経営規模拡大、生産性の向上と単位当たり収量の向上を支援することで、露地野菜産地を維持・拡大し、大口需要への対応と産地間競争力の向上を図ります。【企】



にんじんの自動洗浄ライン

## II 【施設野菜】

### 1 10年後の目指す姿

- ◎担い手により産地の規模が維持され、次代を担う後継者が育成されています。
- ◎雇用や農作業ヘルパーなどを活用した労力補完が行われています。
- ◎夏の高温対策技術が普及し、出荷量と生産物の品質が向上しています。
- ◎ICTを活用した環境制御技術が普及し、出荷量と品質が安定化しています。
- ◎微細昆虫が媒介するウイルス病の対策技術が確立・普及し、出荷量と生産物の品質が向上しています。
- ◎きゅうり・なす産地で統一された病虫害対策を実施し、防除効果が長期的に維持されています。

### 2 現状と課題

- ①施設野菜の産地も高齢化が進んでいますが、後継者は露地野菜に比べて多く確保されているため、後継者が早期に技術・知識を取得し、産地の中核的経営者として円滑に経営を継承することが、今後の産地活性化に重要です。
- ②現在、施設野菜産地の主な労働力は家族労働力であり、家族の加齢や健康状態が経営状況に大きく影響するため、外部からの労働力の確保が必要です。
- ③トマト、きゅうりやなすの産地では、夏期の高温障害による生産量・品質の低下が問題となっています。これを改善するためには遮熱・高温対策の取組が必要です。
- ④きゅうりは市場から周年安定出荷を求められています。このため、天候不順でも安定した出荷量の確保が可能な栽培技術の導入が必要です。
- ⑤産地では微細昆虫が媒介するウイルス病等の難防除病害虫が増加しています。そこで、産地維持のため、産地ぐるみの対策が必要です。

#### 【数値目標】

項目	現状（令和2年度）	目標（令和7年度）
トマト年間出荷量 <sup>※1</sup>	1,280 t	1,340 t
管内野菜指定産地のきゅうり <sup>※2</sup> 販売額（再掲）	422百万円 <sup>※3</sup>	460百万円

※1 主要産地（JA山武郡市）の出荷量。

※2 野菜指定産地における令和2年の実績：冬春きゅうり10ha・1,371t。

※3 管内農協が策定した、各野菜指定産地に係る「産地強化計画」の令和2年度の出荷実績値に、該当出荷期間中の東京都卸売市場（全体）での千葉県産の平均単価を掛けた推計額。

### 3 主な取組内容

- ①各種セミナー、現地検討会や展示ほの設置の他、個別巡回指導等により後継者や新規参入者の技術や知識の習得を支援します。【普】
- ②雇用による労働力補完経営モデルを提案します。【普】
- ③園芸用簡易施設（パイプハウス）での遮熱高温対策技術を確立し普及します。【普】
- ④天候不順でも安定した品質と生産量を維持できる環境制御技術や栽培技術を普及します。【普】
- ⑤ウィルス病を含む難防除病害虫対策技術の導入と、産地ぐるみによる防除体制の構築を支援します。【普】
- ⑥炭酸ガス発生装置や環境モニタリング装置などの環境制御機器と技術の導入、集出荷・選果設備等の導入支援により、経営規模拡大や生産性の向上と単位当たり収量の向上を図ることで、施設野菜産地の大口需要への対応力強化と産地間競争力の向上を目指します。【企】



炭酸ガス発生装置



最新のきゅうり選果ライン